

2014 年度大学入試センター試験（本試験）分析詳細

■ベネッセ・駿台共催／データネット実行委員会

地理 A

1. 総評

【2014 年度センター試験の特徴】

- ・地理 A の学習範囲で身につけた知識・技能をもとに、考察・判断させる出題が中心であった。
- ・難易は昨年よりやや易化。

大問数は昨年から変更なし。解答数が3個増加したため、配点が4点の設問がなくなり、2点の設問が増加した。昨年同様、地理 B との共通問題は、第 5 問の「地域調査」のみであった。図表や写真を用いて、読解の技能と考察力を試す傾向は例年通りだが、読解するのに難解な資料や、判断に細かい知識を必要とする設問が少なく、日ごろの学習を積み重ねてきた受験生が力を発揮できる出題であった。難易は昨年よりやや易化。

2. 全体概況

【大問数・解答数】	大問数は昨年同様 5、解答数は昨年から 3 個増加し、36 個。第 5 問が地理 B との共通問題であった。
【出題形式】	昨年同様、図表を用いた問題や組合せ問題が中心だが、昨年減少した地図・模式図をもとに考えさせる設問が増加した。文章選択肢の正誤を判断する問題において、順不同で解答を 2 個選ばせる設問が 3 問あり、解答数が増加した。
【出題分野】	昨年から変更なし。
【問題量】	解答数は 3 個増加したが、設問数は変更なく、問題量は昨年並。
【難易】	昨年よりやや易化。

3. 大問構成

大問	出題分野・大問名	配点	難易	備考（使用素材・テーマなど）
第 1 問	地理の基礎的事項	23 点	標準	正距方位図法、時差の計算、自然環境、尾根線と谷線
第 2 問	国境を越えた様々な結びつき	22 点	標準	人・物の移動、国際機関
第 3 問	アフリカの自然と生活・文化	22 点	標準	自然環境、産業、生活文化、都市、ODA 抛出国
第 4 問	地球環境問題と国際協力	16 点	やや易	環境問題、自然エネルギー、国際協力
第 5 問	愛知県知多半島の地域調査	17 点	標準	地域調査（地理 B との共通問題）

4. 大問別分析

第 1 問「地理の基礎的事項」

- ・地図の読図と自然環境を中心に、基礎的事項が出題された。昨年出題されなかった小縮尺の地図をもとに問う形式が復活し、図法の理解と地形図読図の技能が求められた。
- ・問 1 は、ブラジルを中心とする正距方位図法をもとに、ブラジルから 4 都市への飛行距離が最も短い都市を問う出題。図の中心から任意の 1 点までの距離と方位が正しく表されるといふ正距方位図法の特徴が理解できていれば、判断は難しくはない。
- ・問 2 は、2 地点間の時差に関する出題。正距方位図法で描かれているため、迷ったかもしれないが、経線を数えて、30 度ごとに描かれていることがわかれば、A と B のロンドンの経度差から、正答を導くことができる。
- ・問 3 は、正距方位図法中に描かれた 3 地域について、地形と産出する鉱産資源の特徴の組合せを選ぶ問題。鉱産資源の特徴がわからなくても、地形の説明から、それぞれが「新期造山帯」「古期造山帯」「安定陸塊」であることがわかれば判断できる。D は古期造山帯のアパラチア山脈、F は新期造山帯のカフカス山脈である。
- ・問 4 は、ラテンアメリカ西岸のある地域の気候・植生の特徴を選ぶ問題で、この地域がアタカマ砂漠であることがわからないと、砂漠気候か地中海性気候かで迷ったかもしれない。
- ・問 7 は、地形図をもとに尾根線と谷線のみを模式的に示した図から読み取れることを問っている。等高線が描かれていないため、谷の傾斜や、尾根線上の地点同士の標高差を読み取ることができないことに気がつかないと判断に迷うと思われる。選択肢 4 は、地点 Y・地点 Z とともに谷線上にあるが、地点 Y と Z は谷筋がつながっており、地点 Z は複数の谷線が集まることから標高の低い地点であると考えて、正文と判断できる。
- ・問 8 は、海岸平野の土地利用を模式図と地形断面図から判断する問題で、海岸に沿った防風林の存在と、標高の高い地域に畑地が立地することを想起できれば正答にたどりつける。

第2問「国境を越えた様々な結びつき」

- ・例年通り、物と人の流れを中心に、国境を越えた世界の結びつきが出題された。全体的に、地理Aの知識をもとに論理的な思考で正答にたどりつく、地理Aらしい工夫された問題がみられた。
- ・問1は、日本の貿易相手国5か国の貿易総額の推移のグラフから国名の組合せを選ぶ問題。1990年時点でトップであったアメリカ合衆国を、2000年以降に貿易額が急増した中国が抜いたことが理解できていれば判断できる。
- ・問3は、船舶によるコンテナ貨物取扱量という見慣れない資料から国名を判断する問題で、判断する決め手がわからず、迷った受験生が多かったと思われる。まず、首位港湾がその国のコンテナ貨物取扱量に占める割合が高い国は、港湾数が少ないと考え、100%の選択肢2が都市国家シンガポール、80%の選択肢4がアラブ首長国連邦であると判断する。選択肢1と3では、圧倒的にコンテナ貨物取扱量が多い選択肢1が海運を中心に貿易が行われている中国である。
- ・問4は、繊維製造業、農林漁業、輸送機械製造業の3業種について、日本企業の海外現地法人の世界全体数と地域別構成比から、業種名の組合せを選ぶ問題。表を地域ごとに縦に読んでいくと、アジアで最も数字が大きいFが繊維製造業、オセアニアで最も数字が大きいGが農林漁業、北アメリカで最も数字が大きいEが輸送機械製造業と見当がつけられる。また、世界全体数では、Eの現地法人数が多く、関連産業が多い輸送機械製造業と確認できる。
- ・問5は、アメリカ合衆国、韓国、中国、日本の相互の訪問客数を示した図から、アメリカ合衆国以外の国名の組合せを判断する問題。まず、どの国に対しても訪問客数が多いQが日本と判断できる。反対に、どの国に対しても訪問客数が少ないRが中国である。
- ・問6は、日本に在住する外国人の人口ピラミッドを、イギリス、中国、フィリピン、ブラジルの4か国について示した中からブラジルを選ぶ問題である。人口ピラミッドの形、男女比に加えて、人数の数値に着目できたかが正答を選ぶ決め手となる。人数が最多の選択肢4が中国、最少で男性が圧倒的に多い選択肢3がイギリスである。男女比では女性が圧倒的に多い選択肢1がフィリピンと判断する。残る選択肢2がブラジルであるが、家族で日本に滞在しているため、14歳以下の子ども的人数が多いことにも特徴が表れている。
- ・問7は、国際機構を中心とした国家間の結びつきの知識を文章で問う出題で、6つの選択肢から2つを選ぶという2014年度に初めて出題された形式であった。知識が問われる内容であるが、APECにアメリカ合衆国が加盟していることや、OPEC結成の目的などは、地理Aの受験生であってもおさえておいてほしい内容である。

第3問「アフリカの自然と生活・文化」

- ・アフリカについて、自然環境、産業、生活・文化、都市、ODA 拠出国など、幅広く出題された。自然と人々の生活の観点から出題されてはいるが、なじみのない地域であり、知識が定着していなければ判断に迷ったであろう。
- ・問1は、3河川の流域について説明した文章と河川の位置の組合せを選ぶ問題である。文章中の「多雨地域、広大な熱帯雨林」「砂漠化の進行する地域を流れる」「外来河川」などのキーワードがあり、判断は難しくない。
- ・問2は、4つの地形断面図から赤道上を通るものを選ぶ問題で、戸惑ったかもしれないが、アフリカ大地溝帯を横切っていることを想起できれば、起伏の大きな断面図は選択肢4しかないことから正答が選べる。
- ・問5は、3都市の写真と説明から、都市の位置の組合せを選ぶ問題である。都市名が示されていないため、判断に迷った受験生もいたと思われる。夕は広い河川が写っていることからナイル川とカイロを想起する。チは白人の居住地から発達した行政・経済都市から、ケニアの首都ナイロビと判断したい。
- ・問7は、アフリカ各国へのODA 供与額首位の拠出国を示した図から拠出国の組合せを選ぶ問題。旧植民地の存在からbのフランスは判断できても、aのアメリカ合衆国を日本だと誤った受験生が多かったと思われる。日本は、近年、アフリカへのODAが増えているが、それぞれの国において首位の拠出国とはなっていない。

第4問「地球環境問題と国際協力」

- ・地球的規模での環境問題とその解決策が出題された。全体にオーソドックスな内容で、比較的解答しやすかったと思われる。
- ・問1は、地球温暖化に関連して、韓国、タイ、ドイツの二酸化炭素排出量の推移のグラフから、国名の組合せを選ぶ問題である。排出量が減少しているアがドイツであることは判断しやすい。排出量が増加しているイとウでは、経済の発展状況から、より排出量が多いイを韓国と判断する。
- ・問2は、日本の自然エネルギーを活用した発電の様子を示す3枚の写真とその説明の組合せを選ぶ問題。写真は典型的なものであり、説明文の「小規模で設置できる」「地球内部のエネルギーを利用する」「大規模な施設では騒音」といった特徴と結びつけやすかったと思われる。
- ・問3は、地図に示された6地域・海域でみられる環境の変化とその要因・自然災害を述べた文章の正誤を判断する問題で、6つの選択肢から2つを選ぶ形式であった。選択肢3と6が誤りであることは判断しやすいが、選択肢2と4は自信を持って誤りと判断できなかった受験生もいたであろう。S地域を襲うハリケーンで引き起こされるのは高潮であり、津波ではない。

第 5 問「愛知県知多半島の地域調査」

- ・地理 B との共通問題。全体としては、地理 A の学習内容で対応可能な内容であった。
- ・分析詳細は、地理 B 第 6 問参照。

5. 過去 5 カ年の平均点(大学入試センター公表値)

年度	2013	2012	2011	2010	2009
平均点	50.09	47.42	52.58	53.58	54.70